

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 5 月 25 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25245078

研究課題名(和文) グローバル人材育成と留学の長期的インパクトに関する国際比較研究

研究課題名(英文) Survey of Global Personnel Development and Long-term Impact of Study Abroad

## 研究代表者

横田 雅弘 (YOKOTA, Masahiro)

明治大学・国際日本学部・教授

研究者番号：90200899

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 30,700,000円

研究成果の概要(和文)：北米の回顧的追跡調査(SAGE)を参考に、留学にはどのようなインパクト(効果・影響)があるのかを、過去に留学を経験した4,489人の方々と経験していない1,298人の方々を対象に比較分析した日本初の包括的・体系的なアンケート調査である。項目としては、留学中の経験や留学によって向上した能力、授業への積極性、留学終了後の就職やキャリアへの影響、価値観・行動の変化、人生の満足度などであり、留学がこれらのいずれにも非常に大きなインパクトをもっていることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：Based on the North American Study Abroad for Global Engagement (SAGE) retrospective tracer study, 4,489 people with study abroad experience and 1,298 people without study abroad experience were surveyed in Japan's first comprehensive and systematic comparative analysis of the impact of study abroad on Japanese people. The results clearly indicate study abroad has an enormous impact in all areas including skill-level, class participation, career path, values, engagement and overall life satisfaction.

研究分野：異文化間教育

キーワード：教育学 グローバル人材 ミッドキャリア調査 留学経験者と非経験者の比較 雇用主調査 ポータル  
サイト

## 1. 研究開始当初の背景

グローバル化する社会で国際的に活躍する人材を育成することは、高等教育の重要な使命である。過去 30 年間で、全世界の留学生数は 4 倍近くに増加し、高等教育の質保証をめぐる議論を背景に、国際社会で活躍する人材に求められるスキルと能力を明確化し、それらを測定する試みといかに修得させるかという取組みも進んでいる。高等教育機関は、グローバル化の時代に世界で活躍できる人材を育成するために、学生の海外学習を促進するなど、多様かつ効果的な国際教育プログラムの開発が求められている。2012 年度から開始された文科省「グローバル人材育成推進事業」は、国際社会で有為に活躍できる人材の育成を推進するものである。教育の質保証と学びの実質化をグローバル人材育成にどう結実させるかは、まさに高等教育の喫緊の課題である。

本プロジェクトは、欧州及び米国における組織的かつ包括的に実施された先行研究をもとに、日本におけるグローバル人材育成の取組み課題と方向性を鮮明にしようとするものである。欧州の先行研究である CHEERS (Careers after Higher Education: a European Research Study Higher Education and Graduate Employment in Europe: 高等教育後の雇用状況に関する調査) は、本研究メンバーでもある Teichler (ドイツ・カッセル大学) を研究代表として、1998 年から 2 年間にわたり、欧州と日本の合計 12 ヶ国で大卒者 (34,145 人) の大学経験と職業経歴に関するデータを分析した。この後継プロジェクトである REFLEX (Research into Employment and professional FLEXibility: 知識社会における柔軟な雇用形態) は、欧州を中心に 16 か国、70,000 人の高等教育修了者を対象に調査し、国際的な能力が就職に有利に働くことを示した。米国では、2006 年から 3 年間、本研究メンバーでもある Paige を代表とするミネソタ大学の研究チームにより、SAGE (Beyond Immediate Impact: Study Abroad for Global Engagement: 国際的社会参画に関して留学が与える長期的インパクト) というプロジェクトが実施された。SAGE は、米国 22 大学から協力を受け、留学経験のある卒業生 21,000 人を対象として回顧的追跡調査 (retrospective tracer study) を実施し、「市民社会参画」、「慈善事業」、「知識創造」、「社会起業」、「人生観・生活観」、「教育」、「職業」の 7 項目を測定した。国際的価値に関する留学の成果としては、「寛容性や多元的な視点」、「国際的な活動への理解」、「アイデンティティと価値に関する認識の変化」などが指摘されている。

日本における先行研究としては、グローバル人材の定義や指標(「大学におけるグローバル人材育成のための指標調査」報告書(みずほ情報総研(株)、2011)、大学生の留学と就

職意識(「日本人留学生の就職意識」(株)ディスコ、2012)、雇用主の留学経験者に対する採用意識(「採用活動に関する企業調査」(株)ディスコ、2012)等についての実態把握調査が進められてきた。また、本研究メンバーの北村を研究代表者として実施した「グローバル人材育成のための大学教育プログラムに関する実証研究」(2010)等、大学における国際教育の運用事例を調査した研究も展開されてきた。しかし、留学や国際教育の長期的な効果や影響について、卒業生と雇用主を対象とした組織的かつ包括的な調査はほとんどない。

## 2. 研究の目的

「グローバル人材育成」は現代日本の喫緊の課題であるが、本研究の目的は「グローバル人材育成」に「留学」が果たす長期的なインパクトについて、留学経験者と非経験者を比較することで、包括的・体系的な調査分析を行うことである。

## 3. 研究の方法

本研究では、以下の調査を行った。

日本でミッドキャリアとして活躍する留学経験者を対象に、留学が各自のキャリアや人生の満足度等にもたらしたインパクトについて主にウェブによる大規模な質問紙調査(2015 年 1 月～5 月)を実施し、4,489 の有効回答を得た。なお、質保証を伴った海外での学習経験を前提として「留学」を考える立場から、諸外国の高等教育機関において 1 学期以上の正規課程への留学及び学位取得を目的とする留学を対象とした。

留学による影響を抽出するために、同様の背景をもつ非留学経験者を対象とした同じ内容の調査を行い(2015 年 8 月～9 月)、1,298 の有効回答を得て比較検討した。

調査協力の許可を得られた回答者の中から 10 名のインタビュー調査もを行い、トランスクリプトを作成して分析した。

留学経験者の雇用主に対する人材評価調査を行い、留学が本人のみならず、日本の企業でどのように評価されているかを分析した。

## 4. 研究成果

ここで対象とした「留学経験者」は以下の通りで、非留学経験者は、留学経験以外は留学経験者と同様の学歴の者とした。

・少なくとも小・中学校は主に日本で過ごし、日本の高校卒業後に 3 か月以上の海外留学を経験した人

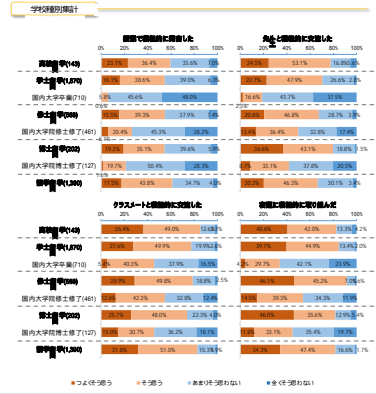
・留学先の対象は、海外の高等学校、大学、大学院、職業・専門学校、語学学校

・海外留学の目的が語学習得や学位取得などであり、単なるボランティアやワーキングホリデーは含まない

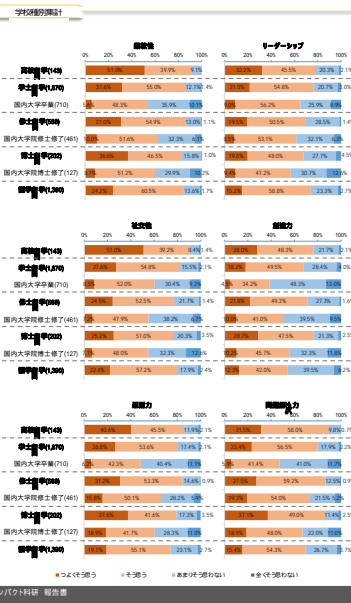
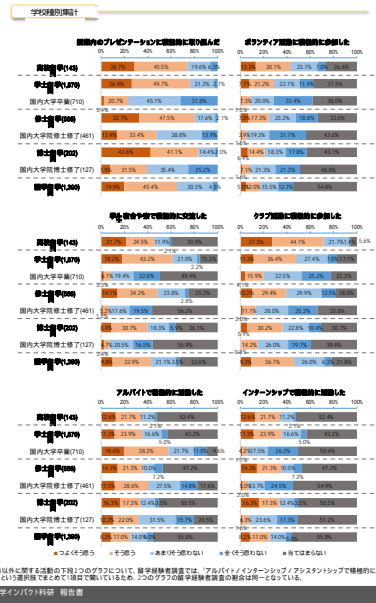
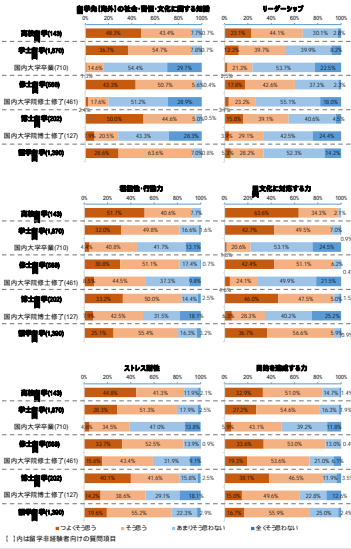
## 1. 海外留学・大学院への進学率

留学により異文化や新しい環境で努力することが成長実感につながる  
留学経験者である留学生、留学未経験者であれば日本の大学に通っている際、授業や課外活動への積極性は顕著な差が存在する。海外の大学では、優れた外国語運用に加え、授業や課題に対する前向きな姿勢が求められる。そのような環境の中で努力し続けることが、能力の向上や価値観の形成（※）に大きく寄与する。留学による能力の向上は、留学による価値観の形成、参加につながる。日本の大学・大学院に通った留学未経験者について授業に対して全体的に消極的な姿勢がみられ、留学経験者とは対照的な差が浮き彫りになっている。

Q 海外留学[大学・大学院]の授業および授業以外の活動についてお話しします。以下のそれぞれの項目について、お答えください。  
※1年は留学未経験者向けの質問



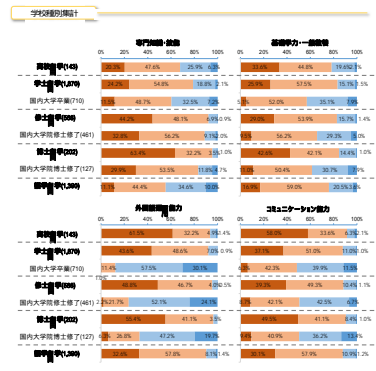
## 学校別の集計



## 2. 海外留学・大学院への進学率

語学力や専門性だけでなく、社会人の基礎力向上にも貢献  
留学の向上・専門知識・海外知識の獲得はもたらすこと、社会に出でからに重要な要素となる。スキルと専門性、卒業後、ローグループの獲得ももたらす。日本社会で活躍する準備が整った。協働性、留学未経験者より留学経験者のほうが向上の割合は大きい。多くの能力について、高校留学を経験した人の能力の向上割合は大きい。また、学士留学・修士留学・博士留学と段階があるにつれて、能力の獲得レベルも向上している。

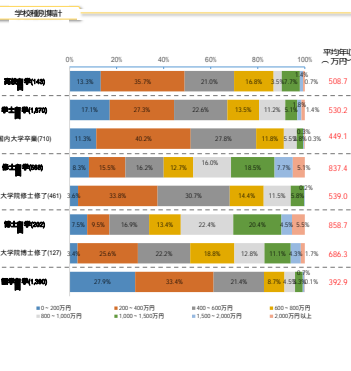
Q 留学の結果[大学・大学院]の学生生活で、次のような能力が向上したと思いますか？  
※1年は留学未経験者向けの質問



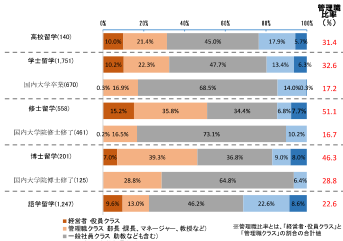
## 3. 卒業後の現在の年収と海外への進学率

留学経験者と未経験者の間で年収は顕著な差  
海外の大学への学士留学を経験した人は年収500万円を超える。国内大学卒業者と比べても約1.5倍近い差を生み出している。大学院への進学を経験した人であれば、年収800万円以上である。国内の大学院修了者と比較しても差が大きい。ただし、修士・博士修了者は、学士取得者に比べて年齢層が高いことに留意が必要である。属性情報の活用も。

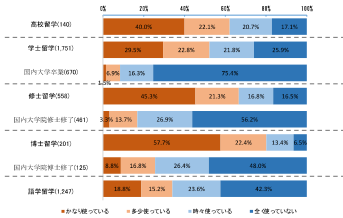
Q あなたの現在の年収をお答えください。



Q あなたの現在の役割をお答えください。



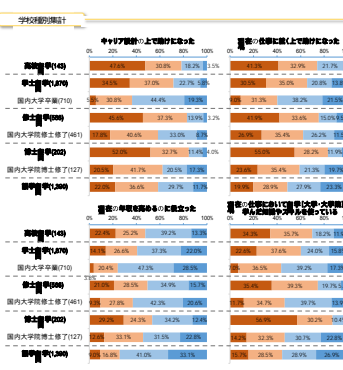
Q 日本語以外で使える言語【最も得意とする外国語】について、現在の仕事でどの程度使っているかお答えください。



#### 4. 学生のキャリアの形

留学経験がキャリア設計の助けとなる  
 キャリアへの影響は全体で比較すると大きな差はないが、大学・大学院によって大きく異なる。キャリア設計の助けとなったという回答が学士課程で最も、大学院卒業であれば更に進化する。一方で、留学未経験者に、大学卒業の大学生がキャリアに与える影響はそれほど大きくない。留学経験がもたらした大きなキャリアに与えていることが実感されている。留学で得た知識やスキルを仕事で活用している人も学士課程で最もであり、留学経験が仕事で活き、その後のキャリアアップを支えているといえる。

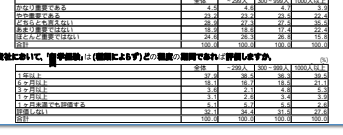
Q 海外留学【大学・大学院での経験】が、あなたのキャリアにどの程度影響を与えたと思いますか。



Q 海外留学【大学・大学院での経験】が、あなたのキャリアにどの程度影響を与えたと思いますか。



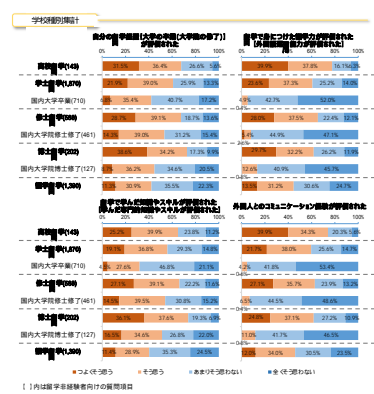
Q 海外留学【大学・大学院での経験】が、あなたのキャリアにどの程度影響を与えたと思いますか。



#### 5. 学生のキャリアの形

留学経験そのものが評価されたのは全体として60%程度  
 ホームページでみたように留学の助成金にまつ情報は高いが、採用時に留学が評価されたという情報は、学士課程・修士課程・博士課程のどれでも低い程度である。国内の大学・大学院の卒業(修了)が評価された割合は高いが、留学そのものや語学力に対する評価よりも、留学経験が資質や意欲・態度に表出していることが多く、評価されたと捉えることができる。

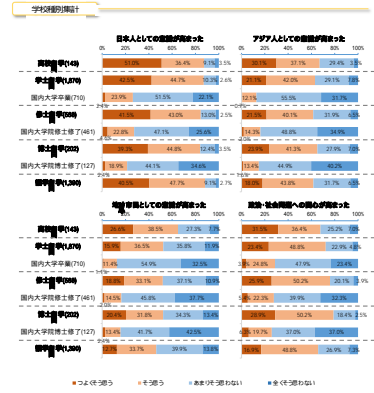
Q 海外留学【大学・大学院での経験】に関する情報が、採用の際にどの程度評価されたと思いますか。



#### 6. 学生のキャリアの形

留学を経験することで、前向きな意識の形成につながる  
 リスクを恐れない新しいことにチャレンジする気持ち、多様な価値観の人々を受け入れる姿勢などが形成される。  
 グローバル社会において重要な「アジア人・地球市民意識」については留学経験者と留学未経験者では顕著な差がみられる。多様な価値観・文化的背景を持つ人々の交流にも積極的にあり、自己肯定感・自己効力感・自己有用感の向上にも貢献している。

Q 海外留学【大学・大学院卒業(修了)の結果】、次のような意識がどの程度高まったと思いますか。



#### 7. 学生のキャリアの形

高校への留学経験者は社会貢献活動に積極的  
 高校留学をした人は、地域活動や交流活動に非常に積極的であることがわかる。高校留学では比較的長期のホームステイを経験した人が多く、ホストファミリーや地域の人々との積極的な交流の機会を持つことが多く、その経験が留学後の意識や行動に現れているのであろう。

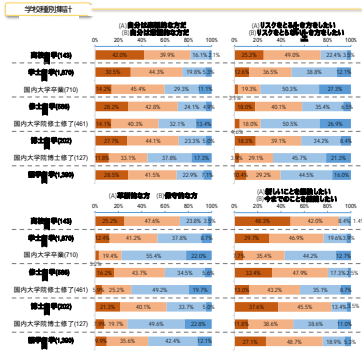
Q 海外留学【大学・大学院卒業(修了)】の結果、次のような行動への関わりがどの程度高まったと思いますか。



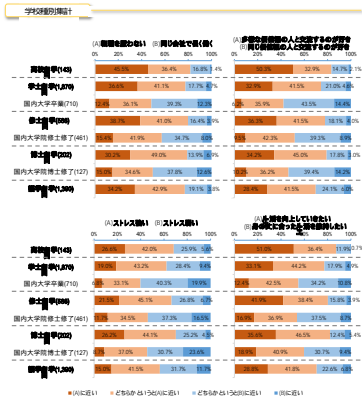
8. 留学経験者の意識の変化

留学経験者は人生においてもリスクを取る、挑戦する人が多い  
留学そのものが大きな挑戦であり、投資であるが、その後の人生においてもリスクを取って、新しいことにチャレンジする精神を持った人が多い。特に高校留学を経験した人は、新規性を求める態度が強い傾向が見られる。

あなたの態度や価値観についてお伺いします。以下のそれぞれの項目について、当てはまるもの一つを選んで下さい。



留学インパクト調査 報告書 22



留学インパクト調査 報告書 23

9. 人生やキャリアの理想

仕事の満足度は経験者と未経験者では差がない  
留学経験者と留学未経験者では後のキャリアに差がある。仕事や年収に対する満足度には有意な差が見られなかった。学士留学と大学院留学の間でも差がなかった。しかし、留学経験者の方が留学未経験者よりも人生の満足度は高かった。留学経験が多様な価値観の人々との交流や交友、社会問題への興味・関心を促し、人生の質的な向上をもたらしたと推測できるのではないかと。

あなたは、以下のそれぞれの項目についてどの程度満足していますか。



留学インパクト調査 報告書 24

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

- 〔雑誌論文〕(計 4 件)  
新見有紀子、太田浩、渡部由紀、秋庭裕子, 「グローバル人材育成と留学の中・長期的インパクトに関する研究：留学経験者と留学未経験者に対するオンライン調査結果より」『アジア文化研究』, 国際アジア文化学会, 印刷中(査読あり).  
米澤彰純、新見有紀子「留学経験の効果意味：グローバル人材 5000 プロジェクトの調査結果から」『IDE 現代の高等教育』, IDE 大学協会, 印刷中(査読なし).  
北村友人「高等教育の国際化と域内連携」『IDE 現代の高等教育』, IDE 大学協会, 48-53, 2016.1 (査読なし).  
小林明「留学体験のインパクトと経年変化～社会人としての留学体験評価(2)～」『留学交流』 JASSO, 1-10, 2015.8(査読なし).

- 〔学会発表〕(計 15 件)  
新見有紀子、太田浩、渡部由紀、秋庭裕子「グローバル人材育成と留学の中・長期的インパクトに関する研究：留学経験者と留学未経験者に対するオンライン調査結果より」, 国際アジア文化学会第 25 回大会, 2016 年 6 月 25 日(確定), 和洋女子大学(千葉県市川市)  
新見有紀子「海外留学の中長期的なインパクト：留学経験者と未経験者に対するオンライン質問票調査結果の比較から」, 異文化間教育学会第 37 回大会, 2016 年 6 月 5 日(確定), 桜美林大学町田キャンパス(東京都町田市)  
太田浩、渡部由紀、新見有紀子、秋庭裕子 G7 International Higher Education Summit International Higher Education-Challenges for a Greater Impact on Global Academic Mobility-, 2016年5月19日, JASSO Tokyo International Exchange Center  
太田浩、新見有紀子、渡部由紀、秋庭裕子 Exploring Long-term Impact of Japanese Study Abroad Experience: Impact on Career and Life Satisfaction, Mentoring Intercultural Learning through Study Abroad (MILSA) Colloquium, 2016 年 4 月 14 日, ベルン(スイス)

- 渡部由紀 Exploring Long-term Impact of Japanese Study Abroad Experience: Research Overview and Activities during Studying Abroad Exploring Long-term Impact of Japanese Study Abroad Experience: Research Overview and Activities during Studying Abroad, Comparative and International Education Society (CIES), 2016 年 3 月 7 日, バンクーバー(カナダ)  
新見有紀子 Exploring Long-term Impact of Japanese Study Abroad Experience: Impact

on Skills, Attitudes, and Involvement in Social Engagement Activities, Comparative and International Education Society (CIES), 2016年3月7日,バンクーバー(カナダ)

秋庭裕子 *Exploring Long-term Impact of Japanese Study Abroad Experience: Undergraduate and Graduate Education*, Comparative and International Education Society (CIES), 2016年3月7日,バンクーバー(カナダ)

芦沢真五、太田浩、黒田一雄 *Exploring Long-term Impact of Study Abroad and Fostering a Globally-Minded Workforce*, Asia-Pacific Association for International Education (APAIE) 2016年3月2日,メルボルン(豪州)

横田雅弘、太田浩、芦沢真五、新田功、秋庭裕子、渡部由紀、新見有紀子「海外留学の驚くべきインパクト」,第3回Go Global Japan Expo,2015年12月20日,明治大学(東京都千代田区)

横田雅弘「グローバル人材育成と地域企業」,広島修道大学・広島市立大学共催【招待講演,2015年10月3日,サテライトキャンパスひろしま(広島県広島市)

米澤彰純 *International Workshop: Global HR and the Japanese Company*, National University of Singapore【ワークショップ】2015年9月23日,シンガポール

秋庭裕子、新見有紀子、芦沢真五、横田雅弘「海外留学の長期的なインパクト調査 留学後のキャリアと人生に対する満足度に焦点を当てて」留学生教育学会第20回大会,2015年8月29日,日本電子専門学校(東京都新宿区)

芦沢真五「留学がもたらす長期的なインパクトに関する国際比較調査 - グローバル人材育成において留学が果たす役割とは - 」日本高等教育学会第18回大会,2015年6月28日,早稲田大学早稲田キャンパス(東京都新宿区)

渡部由紀、新見有紀子、黒田一雄、芦沢真五、太田浩「海外留学の長期的なインパクト - キャリア、能力・スキル、意識・行動・態度、人生への満足度」比較教育学会第51回大会,2015年6月13日,宇都宮大学(栃木県宇都宮市)

新見有紀子、横田雅弘、太田浩「グローバル人材育成と留学の長期的なインパクトに関する国際比較調査 - 留学がその後のキャリアや人生に与える影響について - 」異文化間教育学会第36回大会,2015年6月6日,千葉大学西千葉キャンパス(千葉県稲毛区)

〔その他〕  
ホームページ等

<http://recsie.or.jp/project/gj5000/>

\* 研究成果をまとめた著書が、2017年度に学文社より刊行予定。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

横田 雅弘(YOKOTA, Masahiro)  
明治大学・国際日本学部・教授  
研究者番号: 90200899

### (2) 研究分担者

芦沢 真五(ASHIZAWA, Shingo)  
東洋大学・国際地域学部・教授  
研究者番号: 00359853

新田 功(NITTA, Isao)  
明治大学・政治経済学部・教授  
研究者番号: 30208251

北村 友人(KITAMURA, Yuto)  
東京大学・大学院教育学研究科・准教授  
研究者番号: 30362221

米澤 彰純(YONEZAWA, Akiyoshi)  
名古屋大学・国際開発研究科・准教授  
研究者番号: 70251428

黒田 一雄(KURODA, Kazuo)  
早稲田大学・大学院アジア太平洋研究科・教授  
研究者番号: 70294600

太田 浩(OTA, Hiroshi)  
一橋大学・国際教育センター・教授  
研究者番号: 70345461

渡部 由紀(WATABE, Yuki)  
一橋大学・大学院商学研究科・講師  
研究者番号: 60600111

秋庭 裕子(AKIBA, Hiroko)  
一橋大学・商学研究科・特任准教授  
研究者番号: 10313826

新見 有紀子(SHIMMI, Yukiko)  
一橋大学・大学院法学研究科・講師  
研究者番号: 90747396  
(平成27年度より研究分担者)

小林 明(KOBAYASHI, Akira)  
明治大学・国際日本学部・准教授  
研究者番号: 90514183  
(平成27年度より研究分担者)